

中国の庶民生活

とにかく人が多い。街の中は人で溢れかえっていた。中国・上海に到着した第一日目の私の印象であった。空港よりタクシーで30分、上海国際博覧会の開催に合わせて建設された市の中心部にあるホテルに荷物を下ろした。見るからに豪華なホテルであった。ロビーの広さとインテリアのセンスの良さ、更には部屋の中の設備も一流であった。この一点を見ても中国の発展ぶりが窺われた。

早速、中国の散策に出かけた。真っ青に晴れ上がった空の下を5分も歩くと、そこは歴史を感じる庶民の街が続いていた。細い路地をくねくねと歩いた。家々の窓からは一本の長い竿が伸び、洗濯物が干されていた。まるで七夕祭りのように干し物の下を潜って行く。小さな店ではお惣菜を作って売っていた。服装もみんなラフな恰好である。

ここは近代化から取り残された昔ながらの住宅と生活様式が続いていた。日本のひと昔前を見るようで懐かしくさえ思えた。自転車が家の前にありバイクがあり、ドアも窓も開けっ放しの解放感。しかし庶民の逞しく生きる頑張りも感じ取れた。時折、路地の向こうに中国近代化の超高層ビルを垣間見る。そのアンバランスが如何にも急速に発展する中国を象徴しているように思った。

撮影 2010年夏

